

かばがわ
栴川ダムの検証に係る検討

結果報告書 正誤表

平成 23 年 11 月

香 川 県

章	ページ	箇所	誤	正																																																																																																								
4	P4-6	図 1 利水計算結果 (梶川ダム利水基準年策定計算)	図 1 利水計算結果（梶川ダム利水基準年策定計算）	(誤記) ・ 渇水対策容量の表示位置の記載ミス ・ 渇水対策容量決定年の記載ミス（1994 年→1996 年） 図 1 利水計算結果（梶川ダム利水基準年策定計算）																																																																																																								
7.5	P7-21	流水の正常な機能の維持に関する代替案の詳細検討 評価軸ごとの評価 (目標・コスト)	<table> <tr> <th>評価軸</th><th>評価の考え方</th><th>①現行計画(梶川ダム)</th><th>②ため池</th><th>③海水淡水化</th></tr> <tr> <td rowspan="5">目標 (必要水量等)</td><td>●確保水量とその確実性</td><td>・貯留容量5,540千m³を確保 ・利水安全度1/10</td><td>○ ・貯留容量5,540千m³を確保</td><td>○ ・海水淡水化により25,000m³／日(貯留容量5,540千m³相当)を確保 ・取水量の変動に対して対応が困難 ・天候等に左右されず安定的に確保可能</td></tr> <tr> <td>●段階的にどのように効果が確保されていくのか</td><td>・10年後にはダム完成 ・取水地点下流の利水者の同意が得られればダム完成前にも取水可能</td><td>○ ・ため池掘削工事後(未定) ・3池が改修対象であり、3段階での効果発現となる。</td><td>△ ・海水淡水化施設完成後(未定) ・段階的に施設の整備が可能</td></tr> <tr> <td>●どの範囲でどのような効果が確保されていくのか(取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか)</td><td>・梶川ダムより下流の正常流量を確保可能</td><td>○ ・梶川ダムより下流の正常流量を確保が必要</td><td>△ ・海から梶川ダム合流付近まで送水が必要</td></tr> <tr> <td>●どのような水質の用水が得られるか</td><td>・香東川より取水した原水(水質基準を満足しており水道用水の原水として良好)</td><td>○ ・ため池に流入し、貯留された水(水深が浅いため滞留時間が長いとアオコが発生しやすく水質の変動は大きい)</td><td>△ ・海水(海水淡水化施設で膜処理が必要な水)</td></tr> <tr> <td>評価軸としての評価</td><td>海水淡水化に比べて、取水の安定性は劣るが、必要開発量の確保が可能である。早期に効果発現が見込まれる。</td><td>○ 他2案に比べて取水の安定性が劣る。効果の発現は可能(地権者等との協議に時間を要する可能性あり)</td><td>△ 他2案と比較して取水の安定性に優れるが、取水量の変動に対しては対応が困難である。</td></tr> </table> <table> <tr> <th>評価軸</th><th>評価の考え方</th><th>①現行計画(梶川ダム)</th><th>②ため池</th><th>③海水淡水化</th></tr> <tr> <td rowspan="5">コスト</td><td>●完成までに要する費用はどのくらいか</td><td>・ダム残事業費(33170万56.1%) 180.6億円 180.6億円</td><td>△ ・ため池貯留施設 291.0億円 291.0億円</td><td>○ ・海水淡水化施設 141.7億円 141.7億円</td></tr> <tr> <td>●維持管理に要する費用はどのくらいか</td><td>・梶川ダム 計 13百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 30.7億円 (13百万円/年×50年×0.4296) 2.9億円</td><td>○ ・貯留施設 147百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 31.7億円 (147百万円/年×50年×0.4296) 31.7億円</td><td>△ ・施設管理費 2.686百万円/年 計 1,290百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 577.0億円 (2,896百万円/年×50年×0.4296) 577.0億円</td></tr> <tr> <td>●その他の費用(ダム中止に伴って発生する費用等)はどのくらいか</td><td>該当なし</td><td>○ ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付 10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円</td><td>△ ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付 10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円</td></tr> <tr> <td>●費用の合計</td><td>183.5億円</td><td>○ 333.6億円</td><td>△ 729.6億円</td></tr> <tr> <td>評価軸としての評価</td><td>3案の中で最もコストが小さい。</td><td>○ 梶川ダムに比べややコストが劣る</td><td>△ コストは3案の中で最も高い</td></tr> </table>	評価軸	評価の考え方	①現行計画(梶川ダム)	②ため池	③海水淡水化	目標 (必要水量等)	●確保水量とその確実性	・貯留容量5,540千m³を確保 ・利水安全度1/10	○ ・貯留容量5,540千m³を確保	○ ・海水淡水化により25,000m³／日(貯留容量5,540千m³相当)を確保 ・取水量の変動に対して対応が困難 ・天候等に左右されず安定的に確保可能	●段階的にどのように効果が確保されていくのか	・10年後にはダム完成 ・取水地点下流の利水者の同意が得られればダム完成前にも取水可能	○ ・ため池掘削工事後(未定) ・3池が改修対象であり、3段階での効果発現となる。	△ ・海水淡水化施設完成後(未定) ・段階的に施設の整備が可能	●どの範囲でどのような効果が確保されていくのか(取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか)	・梶川ダムより下流の正常流量を確保可能	○ ・梶川ダムより下流の正常流量を確保が必要	△ ・海から梶川ダム合流付近まで送水が必要	●どのような水質の用水が得られるか	・香東川より取水した原水(水質基準を満足しており水道用水の原水として良好)	○ ・ため池に流入し、貯留された水(水深が浅いため滞留時間が長いとアオコが発生しやすく水質の変動は大きい)	△ ・海水(海水淡水化施設で膜処理が必要な水)	評価軸としての評価	海水淡水化に比べて、取水の安定性は劣るが、必要開発量の確保が可能である。早期に効果発現が見込まれる。	○ 他2案に比べて取水の安定性が劣る。効果の発現は可能(地権者等との協議に時間を要する可能性あり)	△ 他2案と比較して取水の安定性に優れるが、取水量の変動に対しては対応が困難である。	評価軸	評価の考え方	①現行計画(梶川ダム)	②ため池	③海水淡水化	コスト	●完成までに要する費用はどのくらいか	・ダム残事業費(33170万56.1%) 180.6億円 180.6億円	△ ・ため池貯留施設 291.0億円 291.0億円	○ ・海水淡水化施設 141.7億円 141.7億円	●維持管理に要する費用はどのくらいか	・梶川ダム 計 13百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 30.7億円 (13百万円/年×50年×0.4296) 2.9億円	○ ・貯留施設 147百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 31.7億円 (147百万円/年×50年×0.4296) 31.7億円	△ ・施設管理費 2.686百万円/年 計 1,290百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 577.0億円 (2,896百万円/年×50年×0.4296) 577.0億円	●その他の費用(ダム中止に伴って発生する費用等)はどのくらいか	該当なし	○ ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付 10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円	△ ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付 10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円	●費用の合計	183.5億円	○ 333.6億円	△ 729.6億円	評価軸としての評価	3案の中で最もコストが小さい。	○ 梶川ダムに比べややコストが劣る	△ コストは3案の中で最も高い	(誤記) ・ 評価軸 コストにおける維持管理に要する費用 現在価値化した維持管理費の記載ミス（30.7 億円→2.9 億円） <table> <tr> <th>評価軸</th><th>評価の考え方</th><th>①現行計画(梶川ダム)</th><th>②ため池</th><th>③海水淡水化</th></tr> <tr> <td rowspan="5">目標 (必要水量等)</td><td>●確保水量とその確実性</td><td>・貯留容量5,540千m³を確保 ・利水安全度1/10</td><td>○ ・貯留容量5,540千m³を確保</td><td>○ ・海水淡水化により25,000m³／日(貯留容量5,540千m³相当)を確保 ・取水量の変動に対して対応が困難 ・天候等に左右されず安定的に確保可能</td></tr> <tr> <td>●段階的にどのように効果が確保されていくのか</td><td>・10年後にはダム完成 ・取水地点下流の利水者の同意が得られればダム完成前にも取水可能</td><td>○ ・ため池掘削工事後(未定) ・3池が改修対象であり、3段階での効果発現となる。</td><td>△ ・海水淡水化施設完成後(未定) ・段階的に施設の整備が可能</td></tr> <tr> <td>●どの範囲でどのような効果が確保されていくのか(取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか)</td><td>・梶川ダムより下流の正常流量を確保可能</td><td>○ ・ため池から梶川ダム合流付近まで送水が必要</td><td>△ ・海から梶川ダム合流付近まで送水が必要</td></tr> <tr> <td>●どのような水質の用水が得られるか</td><td>・香東川より取水した原水(水質基準を満足しており水道用水の原水として良好)</td><td>○ ・ため池に流入し、貯留された水(水深が浅いため滞留時間が長いとアオコが発生しやすく水質の変動は大きい)</td><td>△ ・海水(海水淡水化施設で膜処理が必要な水)</td></tr> <tr> <td>評価軸としての評価</td><td>海水淡水化に比べて、取水の安定性は劣るが、必要開発量の確保が可能である。早期に効果発現が見込まれる。</td><td>○ 他2案に比べて取水の安定性が劣る。効果の発現は可能(地権者等との協議に時間を要する可能性あり)</td><td>△ 他2案と比較して取水の安定性に優れるが、取水量の変動に対しては対応が困難である。</td></tr> </table> <table> <tr> <th>評価軸</th><th>評価の考え方</th><th>①現行計画(梶川ダム)</th><th>②ため池</th><th>③海水淡水化</th></tr> <tr> <td rowspan="5">コスト</td><td>●完成までに要する費用はどのくらいか</td><td>・ダム残事業費(33170万56.1%) 180.6億円 180.6億円</td><td>△ ・ため池貯留施設 291.0億円 291.0億円</td><td>○ ・海水淡水化施設 141.7億円 141.7億円</td></tr> <tr> <td>●維持管理に要する費用はどのくらいか</td><td>・梶川ダム 計 13百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 31.7億円 (13百万円/年×50年×0.4296) 2.9億円</td><td>○ ・貯留施設 147百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 31.7億円 (147百万円/年×50年×0.4296) 31.7億円</td><td>△ ・施設管理費 2.686百万円/年 計 1,290百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 577.0億円 (2,896百万円/年×50年×0.4296) 577.0億円</td></tr> <tr> <td>●その他の費用(ダム中止に伴って発生する費用等)はどのくらいか</td><td>該当なし</td><td>○ ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付 10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円</td><td>△ ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付 10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円</td></tr> <tr> <td>●費用の合計</td><td>183.5億円</td><td>○ 333.6億円</td><td>△ 729.6億円</td></tr> <tr> <td>評価軸としての評価</td><td>3案の中で最もコストが小さい。</td><td>○ 梶川ダムに比べややコストが劣る</td><td>△ コストは3案の中で最も高い</td></tr> </table>	評価軸	評価の考え方	①現行計画(梶川ダム)	②ため池	③海水淡水化	目標 (必要水量等)	●確保水量とその確実性	・貯留容量5,540千m³を確保 ・利水安全度1/10	○ ・貯留容量5,540千m³を確保	○ ・海水淡水化により25,000m³／日(貯留容量5,540千m³相当)を確保 ・取水量の変動に対して対応が困難 ・天候等に左右されず安定的に確保可能	●段階的にどのように効果が確保されていくのか	・10年後にはダム完成 ・取水地点下流の利水者の同意が得られればダム完成前にも取水可能	○ ・ため池掘削工事後(未定) ・3池が改修対象であり、3段階での効果発現となる。	△ ・海水淡水化施設完成後(未定) ・段階的に施設の整備が可能	●どの範囲でどのような効果が確保されていくのか(取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか)	・梶川ダムより下流の正常流量を確保可能	○ ・ため池から梶川ダム合流付近まで送水が必要	△ ・海から梶川ダム合流付近まで送水が必要	●どのような水質の用水が得られるか	・香東川より取水した原水(水質基準を満足しており水道用水の原水として良好)	○ ・ため池に流入し、貯留された水(水深が浅いため滞留時間が長いとアオコが発生しやすく水質の変動は大きい)	△ ・海水(海水淡水化施設で膜処理が必要な水)	評価軸としての評価	海水淡水化に比べて、取水の安定性は劣るが、必要開発量の確保が可能である。早期に効果発現が見込まれる。	○ 他2案に比べて取水の安定性が劣る。効果の発現は可能(地権者等との協議に時間を要する可能性あり)	△ 他2案と比較して取水の安定性に優れるが、取水量の変動に対しては対応が困難である。	評価軸	評価の考え方	①現行計画(梶川ダム)	②ため池	③海水淡水化	コスト	●完成までに要する費用はどのくらいか	・ダム残事業費(33170万56.1%) 180.6億円 180.6億円	△ ・ため池貯留施設 291.0億円 291.0億円	○ ・海水淡水化施設 141.7億円 141.7億円	●維持管理に要する費用はどのくらいか	・梶川ダム 計 13百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 31.7億円 (13百万円/年×50年×0.4296) 2.9億円	○ ・貯留施設 147百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 31.7億円 (147百万円/年×50年×0.4296) 31.7億円	△ ・施設管理費 2.686百万円/年 計 1,290百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 577.0億円 (2,896百万円/年×50年×0.4296) 577.0億円	●その他の費用(ダム中止に伴って発生する費用等)はどのくらいか	該当なし	○ ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付 10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円	△ ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付 10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円	●費用の合計	183.5億円	○ 333.6億円	△ 729.6億円	評価軸としての評価	3案の中で最もコストが小さい。	○ 梶川ダムに比べややコストが劣る	△ コストは3案の中で最も高い
評価軸	評価の考え方	①現行計画(梶川ダム)	②ため池	③海水淡水化																																																																																																								
目標 (必要水量等)	●確保水量とその確実性	・貯留容量5,540千m³を確保 ・利水安全度1/10	○ ・貯留容量5,540千m³を確保	○ ・海水淡水化により25,000m³／日(貯留容量5,540千m³相当)を確保 ・取水量の変動に対して対応が困難 ・天候等に左右されず安定的に確保可能																																																																																																								
	●段階的にどのように効果が確保されていくのか	・10年後にはダム完成 ・取水地点下流の利水者の同意が得られればダム完成前にも取水可能	○ ・ため池掘削工事後(未定) ・3池が改修対象であり、3段階での効果発現となる。	△ ・海水淡水化施設完成後(未定) ・段階的に施設の整備が可能																																																																																																								
	●どの範囲でどのような効果が確保されていくのか(取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか)	・梶川ダムより下流の正常流量を確保可能	○ ・梶川ダムより下流の正常流量を確保が必要	△ ・海から梶川ダム合流付近まで送水が必要																																																																																																								
	●どのような水質の用水が得られるか	・香東川より取水した原水(水質基準を満足しており水道用水の原水として良好)	○ ・ため池に流入し、貯留された水(水深が浅いため滞留時間が長いとアオコが発生しやすく水質の変動は大きい)	△ ・海水(海水淡水化施設で膜処理が必要な水)																																																																																																								
	評価軸としての評価	海水淡水化に比べて、取水の安定性は劣るが、必要開発量の確保が可能である。早期に効果発現が見込まれる。	○ 他2案に比べて取水の安定性が劣る。効果の発現は可能(地権者等との協議に時間を要する可能性あり)	△ 他2案と比較して取水の安定性に優れるが、取水量の変動に対しては対応が困難である。																																																																																																								
評価軸	評価の考え方	①現行計画(梶川ダム)	②ため池	③海水淡水化																																																																																																								
コスト	●完成までに要する費用はどのくらいか	・ダム残事業費(33170万56.1%) 180.6億円 180.6億円	△ ・ため池貯留施設 291.0億円 291.0億円	○ ・海水淡水化施設 141.7億円 141.7億円																																																																																																								
	●維持管理に要する費用はどのくらいか	・梶川ダム 計 13百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 30.7億円 (13百万円/年×50年×0.4296) 2.9億円	○ ・貯留施設 147百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 31.7億円 (147百万円/年×50年×0.4296) 31.7億円	△ ・施設管理費 2.686百万円/年 計 1,290百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 577.0億円 (2,896百万円/年×50年×0.4296) 577.0億円																																																																																																								
	●その他の費用(ダム中止に伴って発生する費用等)はどのくらいか	該当なし	○ ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付 10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円	△ ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付 10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円																																																																																																								
	●費用の合計	183.5億円	○ 333.6億円	△ 729.6億円																																																																																																								
	評価軸としての評価	3案の中で最もコストが小さい。	○ 梶川ダムに比べややコストが劣る	△ コストは3案の中で最も高い																																																																																																								
評価軸	評価の考え方	①現行計画(梶川ダム)	②ため池	③海水淡水化																																																																																																								
目標 (必要水量等)	●確保水量とその確実性	・貯留容量5,540千m³を確保 ・利水安全度1/10	○ ・貯留容量5,540千m³を確保	○ ・海水淡水化により25,000m³／日(貯留容量5,540千m³相当)を確保 ・取水量の変動に対して対応が困難 ・天候等に左右されず安定的に確保可能																																																																																																								
	●段階的にどのように効果が確保されていくのか	・10年後にはダム完成 ・取水地点下流の利水者の同意が得られればダム完成前にも取水可能	○ ・ため池掘削工事後(未定) ・3池が改修対象であり、3段階での効果発現となる。	△ ・海水淡水化施設完成後(未定) ・段階的に施設の整備が可能																																																																																																								
	●どの範囲でどのような効果が確保されていくのか(取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか)	・梶川ダムより下流の正常流量を確保可能	○ ・ため池から梶川ダム合流付近まで送水が必要	△ ・海から梶川ダム合流付近まで送水が必要																																																																																																								
	●どのような水質の用水が得られるか	・香東川より取水した原水(水質基準を満足しており水道用水の原水として良好)	○ ・ため池に流入し、貯留された水(水深が浅いため滞留時間が長いとアオコが発生しやすく水質の変動は大きい)	△ ・海水(海水淡水化施設で膜処理が必要な水)																																																																																																								
	評価軸としての評価	海水淡水化に比べて、取水の安定性は劣るが、必要開発量の確保が可能である。早期に効果発現が見込まれる。	○ 他2案に比べて取水の安定性が劣る。効果の発現は可能(地権者等との協議に時間を要する可能性あり)	△ 他2案と比較して取水の安定性に優れるが、取水量の変動に対しては対応が困難である。																																																																																																								
評価軸	評価の考え方	①現行計画(梶川ダム)	②ため池	③海水淡水化																																																																																																								
コスト	●完成までに要する費用はどのくらいか	・ダム残事業費(33170万56.1%) 180.6億円 180.6億円	△ ・ため池貯留施設 291.0億円 291.0億円	○ ・海水淡水化施設 141.7億円 141.7億円																																																																																																								
	●維持管理に要する費用はどのくらいか	・梶川ダム 計 13百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 31.7億円 (13百万円/年×50年×0.4296) 2.9億円	○ ・貯留施設 147百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 31.7億円 (147百万円/年×50年×0.4296) 31.7億円	△ ・施設管理費 2.686百万円/年 計 1,290百万円/年 50年分の維持管理費を現在価値化 577.0億円 (2,896百万円/年×50年×0.4296) 577.0億円																																																																																																								
	●その他の費用(ダム中止に伴って発生する費用等)はどのくらいか	該当なし	○ ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付 10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円	△ ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付 10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円																																																																																																								
	●費用の合計	183.5億円	○ 333.6億円	△ 729.6億円																																																																																																								
	評価軸としての評価	3案の中で最もコストが小さい。	○ 梶川ダムに比べややコストが劣る	△ コストは3案の中で最も高い																																																																																																								